



の1年

これまでとこれから

3年余り猛威を振るってきた新型コロナウイルスが、5月に感染症法上の分類が5類に移行されたことから、対面の機会が格段に増えました。新しい取り組みをご紹介します。2024年も体験と対話を重視した環境教育を提供していきますので、応援よろしくお願いします。

環境教育・ESD 実践動画100選

気候変動や生物多様性の損失など地球規模での危機的状況の課題の解決に向け、環境教育・ESDが学校や教育施設など様々な場で実践されています。

環境省では、全国各地で実施されている環境教育・ESDの実践事例から、新たに取り組みうとしている方がやってみようと思える事例の動画を、実践動画100選と銘打って集め、公表することとしました。JEEFは事務局を担当しています。6月30日～9月29日までの募集期間に全国各地からたくさんのお寄せをいただきました。選定後、環境省のYouTubeで公開予定です。

環境教育等推進専門家 会議

2012年に施行された「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」が環境教育等促進法の基本方針の改定が検討されています。2023年6月から「環境教育等推進専門家会議」が始まり、JEEFは事務局を担当しています。

学校教育現場で環境教育・ESDをより一層推進するためどのような支援ツールや支援体制が必要か、個人の学びが社



令和5年度環境教育等推進専門家会議 | 総合環境政策 | 環境省 (env.go.jp) 各回の議事次第・議事録は、環境省のウェブページをご覧ください。

会全体の変容をもたらす原動力になるようにどのような枠組みや方法で進めるべきか、炭素中立型経済社会・循環経済・自然再興の実現やGX実現に求められる人材を育成するために必要となる環境教育の役割は何か、などを検討しています。

SCジョンソン・海洋プラスチックプロジェクト

2021年から、ジョンソン株式会社（SCジョンソン）のサポートを受けて横浜市で海洋プラスチックが環境に与える影響と、それを軽減するための措置についての認識を高めるプロジェクトを実施しています。実際に自然環境の中でプラスチックごみがどのような状態であるかを知らするために、3種類のクリーンアップイベントを新しく立ち上げました。

① SUPクリーンアップ

横浜市内を流れる大岡川をSUP（Stand Up Paddle board）に乗って進みながら、水上のごみを回収します。大岡川の河口付近はみなとみらい地区にあたり、心地よい潮風を感じながら頭上に広がる大都会を見るのは爽快！

しかし、水上に目を向けると菓子袋や空き缶、壊れたビニール傘などさまざまなごみが流れています。川を泳ぐ魚たちの目と鼻の先にビニールの切れ端などが浮いているのを見ると、この問題を早急に改善する必要があると実感します。（協働：横浜SUP倶楽部）

② リバーサイドクリーンアップ

大岡川の川沿いを歩きながら、陸のごみを拾います。人通りの多い場所では路肩に捨てられているたばこや空き缶が多く、これらが大雨の際に雨水とともに排水溝から川に放流されてしまうので、陸のごみ拾いも大切です。特にたばこの吸い殻が多いのですが、フィルター部分にプラスチックが使われているので、細かく分解されたもので丁寧な拾い集めるようにしています。（協働：横浜SUP倶楽部 ほか）

③ 海の科学者講座

夏休みに3日間連続で、海の環境と海洋プラスチック問題について学ぶ講座を開催。初日は横浜市唯一のビーチである海の公園にて、海洋プラスチック問題のレクチャーと、ビーチでのプラスチック回収にチャレンジしました。2日目は、お隣の横浜・八景島シーパラダイスの釣り堀へと移動して、アジを自分たちで釣り上げた後にそれをさばいていただいて体の仕組みを観察。消化器官やえらの構造を見ながら、ここにプラスチック片が入ったらどうなるかを考え

ました。最終日は、ニューヨークの小学生たちの海洋プラスチック問題への取り組みを追ったドキュメンタリー映画『マイクロプラスチック・ストーリー』を鑑賞。その後、日本人監督の佐竹敦子さんとオンラインでつないで、意見交換を行いました。体験とレクチャー、そして映像を組み合わせたことで、子どもたちの印象に残りやすいプログラムをつくることができました。（協働：公益財団法人横浜市緑の協会、横浜・八景島シーパラダイス、Cafeteria Culture）

文：吹留純子（JEEF）



上：SUPクリーンアップ
中：リバーサイドクリーンアップ
下：海の科学者講座